

【5月】

・緊急事態宣言の延長により、イベントの中止等が相次ぐ

【6月】

・たきかわタビンチプロジェクトにより東2号通りに新壁画完成



【7月】

・新空知大橋タイムカプセル開封



【8月】

・市長インスタグラム開設
・滝川市新型コロナウィルス差別防止宣言

【9月】

・市立図書館「たきリブ通帳」導入
・滝川市生活応援プレミアム商品券」販売開始

【10月】

・交通事故死ゼロ1000日達成

【11月】

・「セイコーマート2021カレンダー」に市出身のアーティスト明円光氏の作品が採用

【12月】

・滝川市農村環境改善センターリニューアルオープン



国見 由弘さん
1961年（昭和三十六年）生まれ



国見由弘さんは滝川工業高等学校卒業後、札幌の自動車販売店に就職。その後は滝川に戻り、実家の国見オートに転職、販売店時代に学んだ販売や整備のノウハウを生かし25歳から社長として活躍されています。「車の整備は作品作りです。自分にしかできないサービスを提供することで喜びだけではなく驚きも与えていきたいです。」と経営について語ってくれました。笑顔は前向きなサインと語る国見さん。「健康」と「笑顔」をエンジンに、丑年も走り続けます。

ギターを独学で修得し、フォークシンガーの顔も持つ国見さん。父親が演奏するアコーディオンを聴いているうちに、音楽に興味を持ったそうです。ライブでは自身が作詞作曲をした曲しか歌わないというポリシーを持っています。

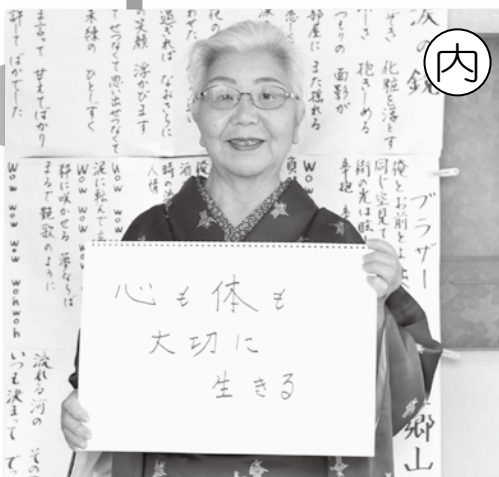
久保田 美津子さん
1949年（昭和二十四年）生まれ



還暦を迎えるまで続けていたバレーボールでは社会人時代に全国大会出場の実績を持つ久保田美津子さん。退職後も、体を動かす機会がほしいという思いからシルバード人材センターに登録し、現在は週3回清掃員としてお仕事を続けています。「コロナがはやる前は孫とよく外食に出かけていました。終息するまで会えないのは、少し寂しいですね。」と語る場面もありました。夢はかわいい孫たちと一緒に、デイズニールランドに行くことだそうです。

趣味は裁縫で、新型コロナウイルスが流行してからはマスク作りをしているそうです。デザインにもこだわり、これまで作成したマスクの数は300枚ほど。完成したマスクは、親戚や職場などお世話になっている方々へプレゼントしています。

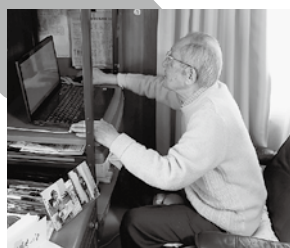
内田 時枝さん
1937年（昭和十二年）生まれ



長年日本舞踊の師範として活躍されてきた内田時枝さん。子育てを終えたら何か習い事を始めたいと思い、出会ったのが日本舞踊だったそうです。現在も10人以上のお弟子さんの指導に励み、お弟子さんが舞台上で出演する際の化粧や着物の着付けも内田さんが行います。「教え子の演技を見て、観客の皆さまに喜んでいただけるのが、一番の喜びです。」健康に踊るための「体」だけではなく、人々に感謝する「心」も大切にしていきたいと語ってくれました。

「日舞との縁があったおかげで今がある。」そう語る内田さんが日本舞踊を始めたのは、およそ40年前。「徳本流現代舞踊」の特別指導員としての免状を取得後、舞踊教室を開講。現在も師範として第一線で活躍されています。

曾川 直久さん
1925年（大正十四年）生まれ



曾川さんの趣味はパソコンゲーム。操作方法は市民講座で習ったそうで、年末は年賀はがきをご自身で印刷することがいつのまにか恒例行事に。「最近の楽しみは、息子や孫から送られてくる、ひ孫の写真をみることです。」

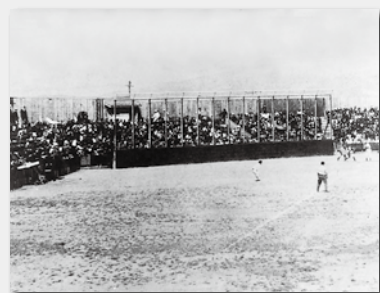
大正、昭和、平成、そして令和と、4つの時代を生きて、今年8回目の丑年を迎えた曾川直久さん。シベリア抑留を経験され、「あのときの貴重な体験は、これまでの人生においても大きな影響を与えてくれたと思います。」と語ってくれました。抑留中に覚えたロシア語を、さらに深めるため語学教室に通ったことも。健康の秘訣はズバリ「家内の言うことをしっかりと聞くことです。」とのこと。日々感謝の心を忘れずに、結婚69年目となる奥様と楽しく過ごしたいそうです。

◀新町堤防家屋の浸水被害の様子



【集中豪雨による大水害】

ほかにも：
・市役所庁舎（旧庁舎）完成移転・業務開始



【町営滝川球場開き】

ほかにも：
・第一回成人式挙行
・滝川消防本部および滝川消防署設置



【第四尋常小学校新校舎落成】

ほかにも：
・第一回召集令状令達
・江部乙村は設定



【滝川屯田移住記念碑建立】

ほかにも：
・滝川駅が現在の場所に